

いばらきネットモニター 抗菌薬等に関する意識調査

1 調査目的

この調査は、本県における薬剤耐性対策の推進にあたり、抗菌薬や薬剤耐性等への県民の皆様の認識を把握し、今後の取組みの参考資料とすることを目的として行いました。

なお、各設問に関する説明（解答）については、茨城県衛生研究所HPに掲載しておりますので、併せてご覧ください。

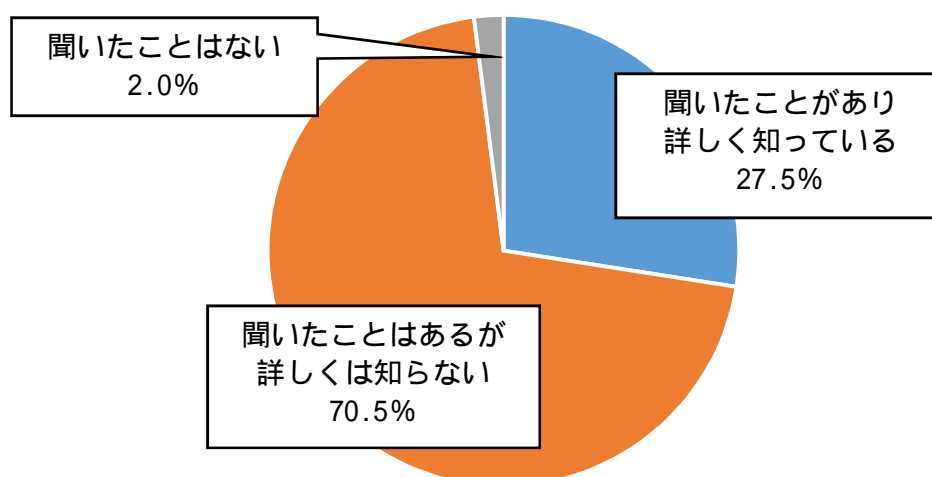
衛生研究所HP：<https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/eiken/kikaku/amr/home.html>

2 結果の概要

- ・ 抗菌薬の認知度は高い（98.0%）が、「ウイルスが増えるのを抑える」（47.8%）・「かぜの時に処方希望する」（39.3%）など、誤った認識をお持ちの方の割合が高かった。
- ・ 薬剤耐性の認知度（76.1%）は抗菌薬と比べると低く、正しい認識をお持ちの方の割合も低かった。

【問1】（抗菌薬の認知）

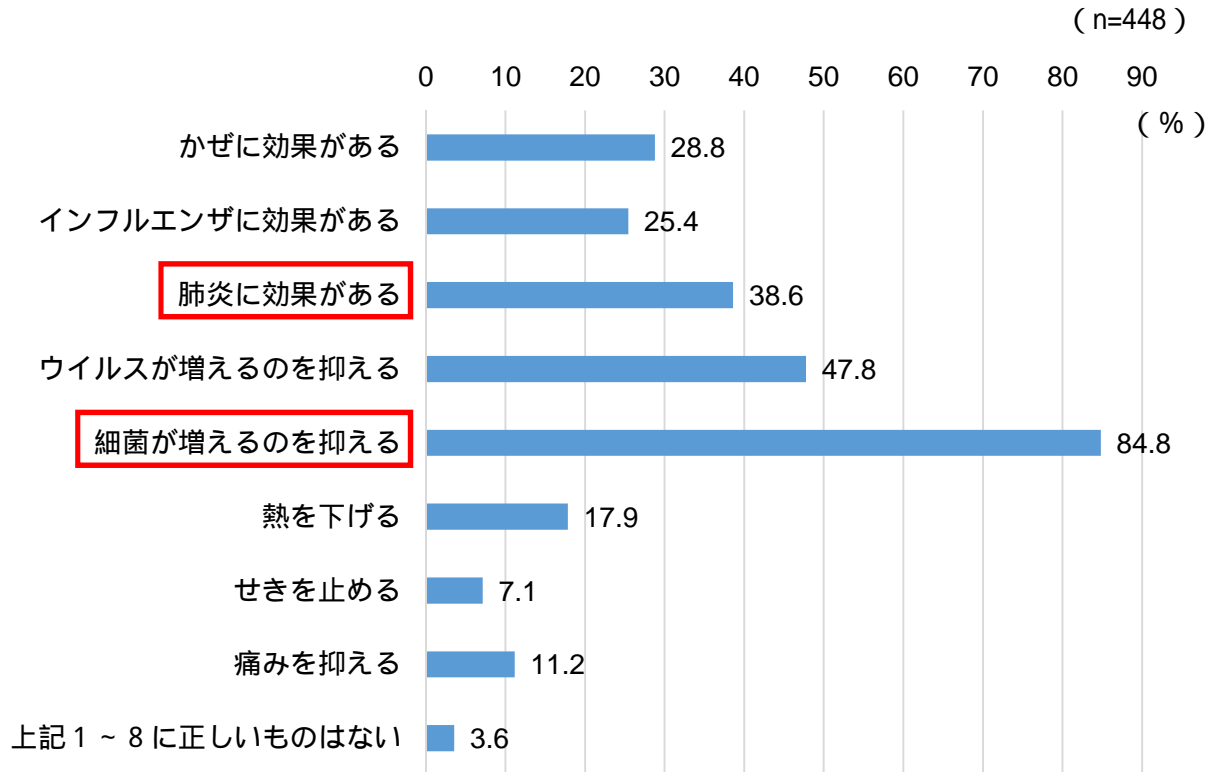
あなたは、「抗菌薬・抗生物質」という言葉を聞いたことがありますか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。（n=448）



抗菌薬・抗生物質の認知度（「聞いたことがあり、詳しく知っている（27.5%）」と「聞いたことはあるが、詳しくは知らない（70.5%）」を合わせた【聞いたことがある】割合）は、98.0%となりました。

【問2】(抗菌薬の理解)

抗菌薬・抗生物質の効果について、次の中からあなたが正しいと思うものを全て選んでください。



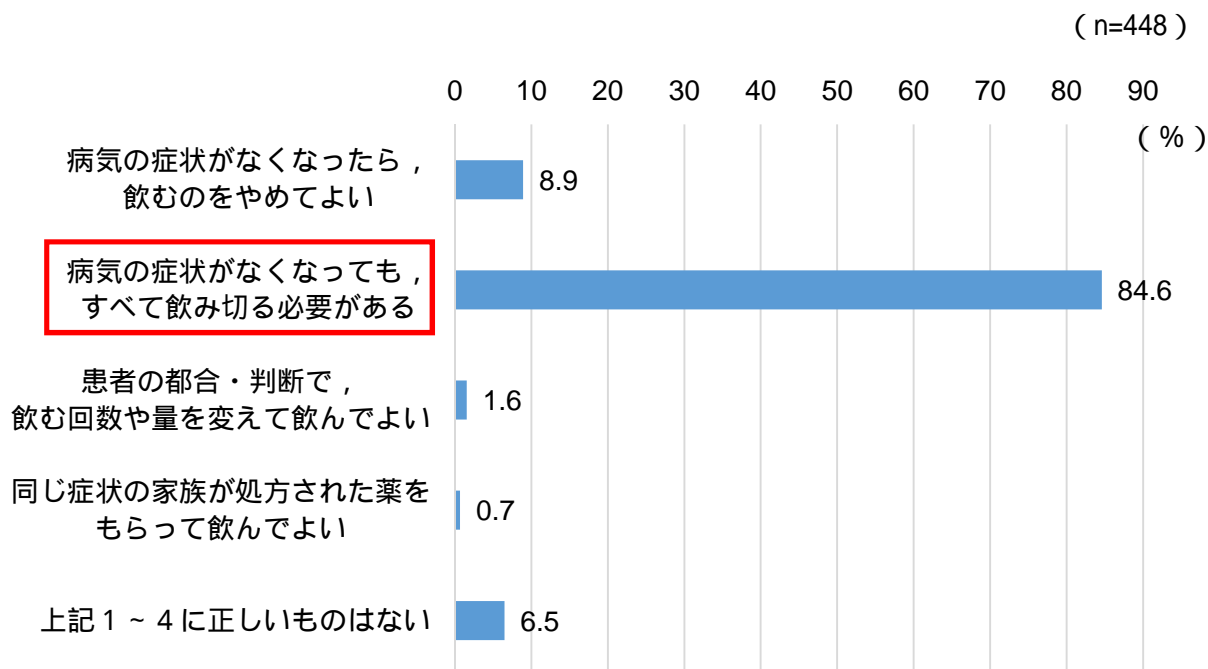
は正答を表す。

「抗菌薬・抗生物質」は、細菌を壊したり、細菌が増えるのを抑える薬です。多くのかぜやインフルエンザの原因はウイルスなので、効果を期待できません。

「細菌が増えるのを抑える」と正しい認識を持つ方が 84.8%いる一方で、「ウイルスが増えるのを抑える」(47.8%)、「かぜに効果がある」(28.8%)、「インフルエンザに効果がある」(25.4%)と誤った認識をお持ちの方もいました。

【問3】(抗菌薬服用の理解)

抗菌薬・抗生物質の飲み方について、次の中からあなたが正しいと思うものを全て選んでください。



は正答を表す。

抗菌薬・抗生物質は多くの種類があり、医師は患者さんに最適な薬を処方します。また、薬によって1日に飲む回数や1回に飲む量が異なります。

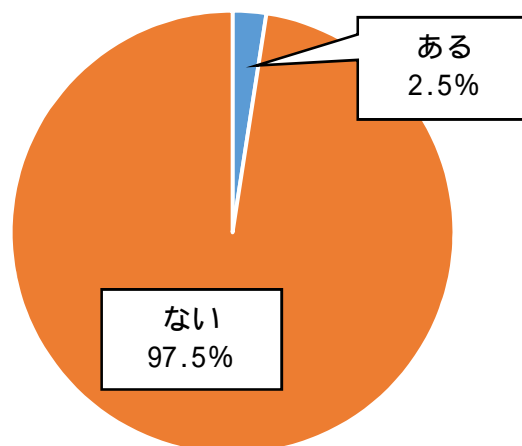
飲むことを途中でやめたり、飲む回数・量を勝手に変えてしまうと、病気がきちんと治らない恐れがあります。また、残った薬や他人の薬を自分の判断で飲むと、病気に合わなければ効かないだけでなく、思わぬ副作用が出ることもあります。

約8割の方が「病気の症状がなくなっても、すべて飲み切る必要がある」と正しい認識を持っていましたが、「病気の症状がなくなったら、飲むのをやめてよい」(8.9%)と回答した方もいました。

【問4】(残薬の服用)

あなたは、今年1月以降、飲み残した抗菌薬・抗生物質又は家族や他人からもらった抗菌薬・抗生物質を飲んだことがありますか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(n = 448)



昨年11月の調査では、「飲み残した抗菌薬・抗生物質又は他人の抗菌薬・抗生物質を飲んだことがある」と回答した方が約10%いましたが、今回の調査でも、2.5%の方が「飲んだことがある」と回答していました。

【問5】(残薬服用の機会)

(問4で「1 ある」と回答された方にお伺いします。)

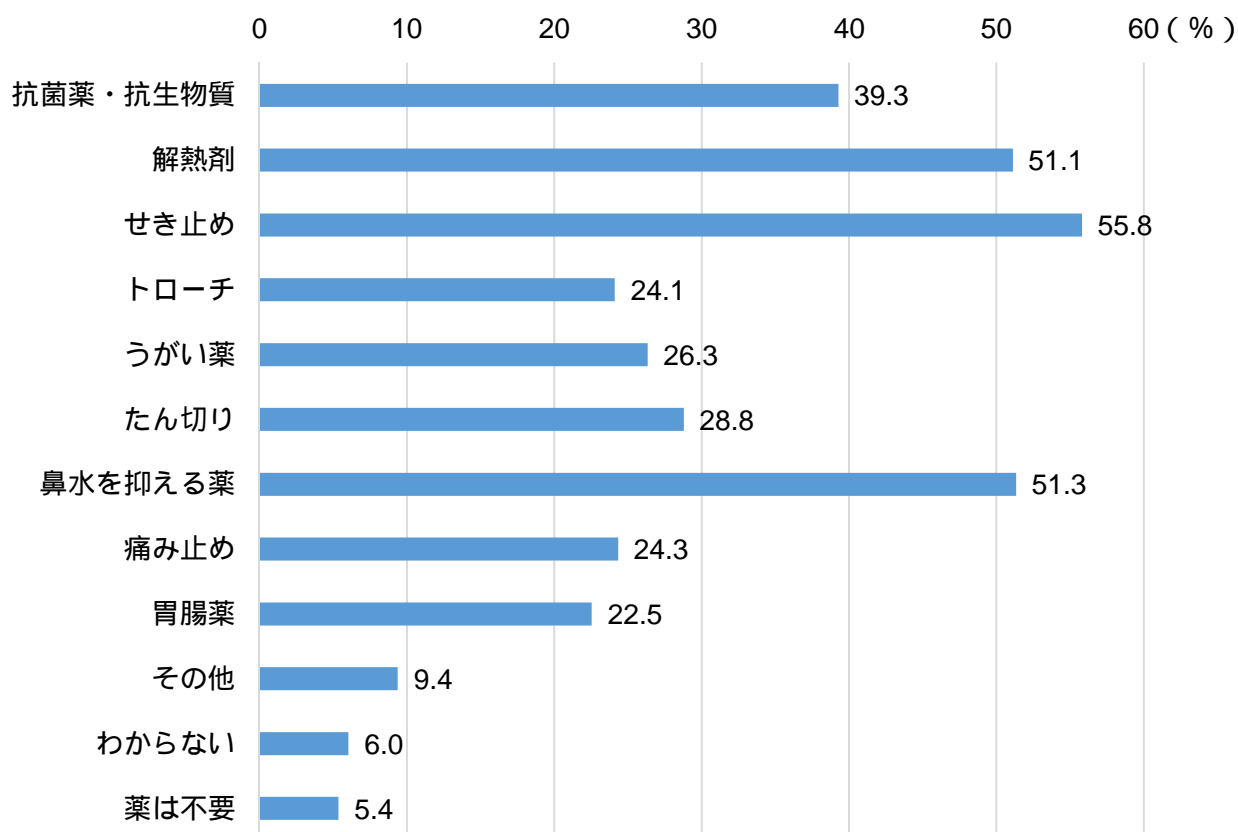
どのようなときに飲み残した又はもらった抗菌薬・抗生物質を飲みましたか。50文字以内で記入してください。

- ・風邪をひいたとき
 - ・熱が出たとき
 - ・膀胱炎の症状がつかったとき
- など11件の回答がありました。

【問6】(処方の希望)

あなたは、今後かぜで医療機関を受診する場合、どんな薬を処方してほしいですか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

(n = 448)



その他の回答

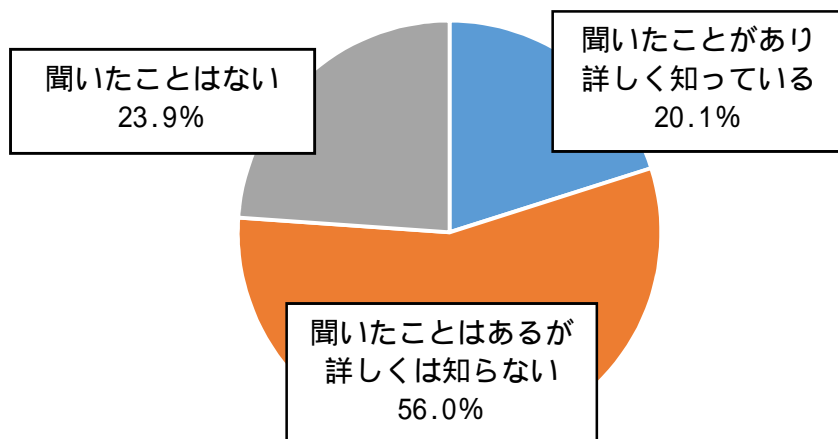
- ・症状に合った薬
- ・漢方薬
- ・医師の判断に任せる
- ・鼻づまりを治す薬 など 42 件の回答がありました。

多くのかぜの原因はウイルスなので、抗菌薬・抗生物質の効果は期待できません。しかし、約 40%の方が「抗菌薬・抗生物質の処方を希望する」と回答しました。

【問7】(薬剤耐性の認知)

あなたは、「薬剤耐性・薬剤耐性菌」という言葉を聞いたことがありますか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。

(n = 448)

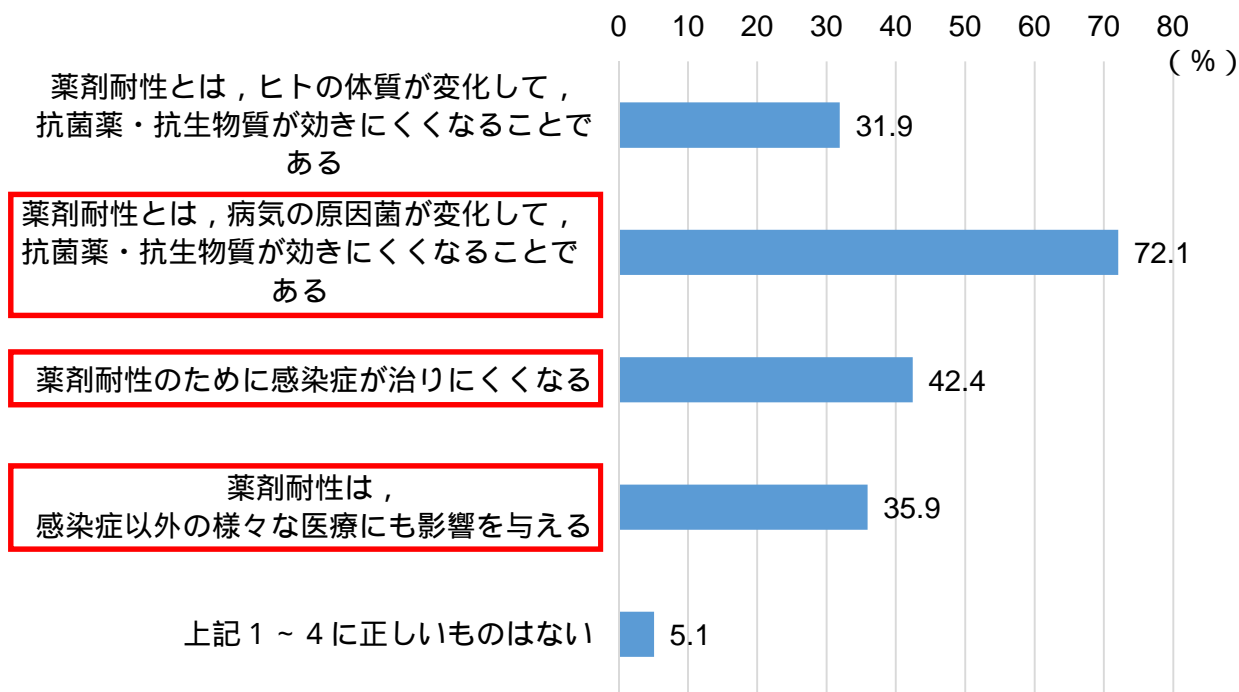


薬剤耐性、薬剤耐性菌の認知度(「聞いたことがあり、詳しく知っている(20.1%)」と「聞いたことはあるが、詳しくは知らない(56.0%)」を合わせた【聞いたことがある】割合)は、76.1%となりましたが、抗菌薬・抗生物質(問1)と比べると認知度が低いことが分かりました。

【問 8】(薬剤耐性の理解)

薬剤耐性について、次の中からあなたが正しいと思うものを全て選んでください。

(n = 448)



は正答を表す。

「薬剤耐性」とは、病気の原因菌が変化して、抗菌薬・抗生物質が効かない、効きにくくなることです。薬剤耐性菌が増えると、これまで抗菌薬・抗生物質を飲めば治っていた感染症が治りにくなり、手術の実施が困難になるなど、様々な医療に影響を与えます。

「ヒトの体質が変化して抗菌薬・抗生物質が効きにくくなる」と回答した方は3割を超えました。

3 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：令和2年10月19日(月)～11月1日(日)

調査方法：インターネット(アンケート専用フォームへの入力)による回答

モニター数：774名(県内在住者のみ)

回収率：57.9%(448名)

回答者の属性：以下の通り。ただし、百分率表示は、小数点以下第二位を四捨五入しているため、個々の比率の合計は100%にならない場合がある。

		人数(人)	比率(%)
全体(n)		448	100.0
地域別	県北	46	10.3
	県央	168	37.5
	鹿行	26	5.8
	県南	164	36.6
	県西	44	9.8
性別	男性	212	47.3
	女性	236	52.7
年齢別	16～19歳	10	2.2
	20～29歳	38	8.5
	30～39歳	93	20.8
	40～49歳	104	23.2
	50～59歳	103	23.0
	60～69歳	49	10.9
	70歳以上	51	11.4
職業別	自営業	33	7.4
	会社員	158	35.3
	団体職員	15	3.3
	公務員	15	3.3
	主婦・主夫	101	22.5
	学生	21	4.7
	無職	57	12.7
	その他	48	10.7

(2) 担当課

茨城県衛生研究所 企画情報部

電話：029-241-6652 E-mail：eiken1@pref.ibaraki.lg.jp